



JAみどりの環境保全米栽培ごよみ [ひとめぼれ・ササニシキ]

①化学肥料施用量(窒素分量)の50%削減! ②農薬使用成分回数の50%削減! みどりの農業協同組合

栽培指針

- ◎人にやさしい、自然にやさしい米作りをモットーとする。
- ◎産地間競争に打ち勝てる、売れる米作りを行う。
- ◎毎年、全量種子更新を行う。
- ◎生産履歴記帳(トレーサビリティ)し、消費者に開示する。
- ◎環境保全を常に意識した農産物生産に努める。

品種
ひとめぼれ



水管理
 活着後は日中浅水(2~3cm) → 中干し(有効茎が確保されたら落水) → 間断灌水・低温時深水 → 飽水管理(足跡に水が残る程度) → 落水(出穂後25~30日)

使用農薬の成分カウント数(慣行栽培は17成分)

タフブロック	0
ナエファイン剤	1
Dr.オリゼフェルテラ剤 又は オリゼメート剤+フェルテラ剤	2
キマリテ剤(2)+[補完防除 バサグラン剤(1)]	3
キラップ剤(2回)	2
ボルドー剤・バリダシン剤・カスミン剤	0
成分合計	8

前年10月~2月

●
土づくり

4月	5月			6月			7月			8月			9月			10月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
● 塩水選	● 播種	● 田植	● え	● 分け	● つ	● 開始	● 有効	● 幼穂	● 分終	● け止	● 成	● 穂	● 出穂	● 揃	● 穂	● 期	● 成	● 熟	● 刈

土づくり・施肥(10a当り)

1. 土づくり(下記のいずれかを必ず行う)

- ①完熟堆肥の施用
原則として1t以上の完熟堆肥を施用する。
- ②稲わらの施用
稲わらすき込みの場合は、年内の早い時期にすき込みを完了する。
窒素を含まない腐熟促進材を使用し、効果的に稲わらを分解させる。
(ワラ分解キング 10kg/10a)
- ③土づくり肥料の施用
土壌改良資材の散布については、下表資材等を参考に施用する。

土づくり肥料	とれ太郎: 40kg(10a当り) またはケイカリン46・シリカリン40: 40kg(10a当り) 醗酵鶏糞 45kg~窒素成分約1.1kg(10a当り) 醗酵鶏糞 90kg~窒素成分約2.3kg(10a当り)
--------	--

※堆肥・稲わらの施用が難しい場合での栽培では土づくり肥料を必ず施用する。
※窒素を含む腐熟促進剤は使用しない。

2. 基肥

肥料名	施肥量 ひとめぼれ(基準)	窒素 分量	化学窒素 分量	備考
みやぎ米有機一発218	50kg	6.00kg	3.00kg	左記の施肥量は最大施用量です
みやぎ米有機一発499	40kg	5.60kg	3.24kg	
ニュープレーパーペースト	60kg	4.80kg	2.40kg	
塩加磷安046号	30kg	3.00kg	3.00kg	
有機入り一発肥料688	30kg	4.80kg	3.18kg	

※ササニシキの施用量については20%程度、減肥してください。
※土壌条件、堆肥の施用等により施肥量は調整してください。

3. 追肥(分けつ肥・穂肥等)

肥料名	施肥量
NK化成C68号	肥料入り育苗培土+育苗肥料+基肥+追肥の化学窒素施用量で3.5kg以下。詳しくは、営農センターまでお問い合わせ下さい。
流し込み追肥35	

※上記以外で、土壌条件や品種等により追肥が必要な場合は、指導員と相談の上、「有機アグレット666特号」等の有機100%肥料を使用する。

育苗・田植・水管理

1. 育苗

種子は全量更新すること。
薄まきで健苗育成(120~150g/箱・催芽糞)

使用農薬	種子消毒 立枯病・ムレ苗防止	温湯消毒法 タフブロック ナエファイン粉剤又はフロアブル剤のいずれか1回のみ
------	-------------------	--

※温湯消毒済種子でも塩水選を行う。
※タフブロックは温湯消毒との併用により効果が高い。

2. 田植

- 田植時期 5月10~25日を目安とする。
- 植付本数 3~4本とする。
- 栽植密度 18株/m²を基準とする。(60株/3.3m²)

※ほ場の条件により加減が必要。

3. 水管理

- 田植後の水管理は、活着するまでは葉先が2~3cm出る程度とし、その後日中浅水とする。
茎数が20本程度確保されたら無効茎を抑えるため中干し又は深水管理とする。

- 中干し後は、間断かん水により根の健全化に努める。

- 出穂後は、飽水管理(足跡に水が残る程度)とし、登熟期まで根の健全化に努め登熟向上を図る。

- 出穂後は、30日以降とし、早期落水はしない。
登熟期に水分不足とならない水管理とする。

除草剤・病虫害防除

1. 除草剤

薬剤名(使用量/10a)	使用適期
初・中期一発剤	キマリテ1キロ粒剤 1kg キマリテフロアブル 500ml キマリテジャンボ 300g
中後期剤	バサグラン液剤(補完防除) 500ml バサグラン粒剤(補完防除) 3kg

※効果的な使い方 ⇒ 代かき後10日以内に散布。
※バサグラン剤は、雑草の発生状況に応じて使用して下さい。

2. 病虫害防除(箱処理・本田・ラジヘリ)体系

◎葉いもち・イネミズゾウムシ防除

薬剤名	使用時期	使用量
Dr.オリゼフェルテラ粒剤	緑化期~移植当日	50g/箱
フェルテラ箱粒剤	播種時、覆土前~移植当日	
ファーストオリゼ箱粒剤	播種前	3kg
オリゼメート粒剤	6月中旬	
オリゼメート粒剤40	6月中旬	

◎稲こうじ病防除(本田)

薬剤名	使用時期	使用量
Zボルドー粉剤DL	出穂10日前まで	3~4kg

◎カメムシ防除(本田・ラジヘリ)

薬剤名	使用時期	使用量
キラップ粉剤DL	穂ぞろい期	3~4kg
キラップフロアブル	穂ぞろい期	0.8ℓ

※尚、ラジヘリ防除の他に補完防除の合計2回とする。
※病虫害が多発した場合は、JAIに相談して下さい。
※農薬散布時は、ドリフト(飛散)に注意すること。

◎いもち病(本田)

薬剤名	使用時期	使用量
カスミン液剤	穂揃期まで	8倍800cc 1,000倍

◎紋枯病(本田)

薬剤名	使用時期	使用量
バリダシン粉剤DL	出穂2週間前~出穂期	3~4kg 1,000倍
バリダシン液剤	収穫14日前まで	

刈取・乾燥・調製

1. 適期刈取り

◎積算温度を勘案し、適期刈取りを励行する。
(出穂後45日頃を目安とする)

品種名	出穂後の積算気温	出穂後の日数
ひとめぼれ	940~1,100℃	42~50日
ササニシキ	960~1,170℃	43~53日

2. 乾燥

水分は14.5%以上~15.0%以下を目標とする。
◎乾燥機を使用の際は、努めて低温乾燥とする。

3. 調製

ライスグレーダーの網目は1.90mmを必ず使用し、整粒歩合80%以上の1等米に仕上げる。

※複数品種栽培している場合は、コンタミ(異品種混入)のないよう機械等の清掃を確実にを行う。

※畦畔への除草剤散布は行わない。